

小山市教育委員会会議録
(平成27年10月定例会)

・会議の日時及び場所

日時 平成27年10月27日(火) 午後2時30分

場所 小山市立中央公民館 試写室

・会議の組織人員

人数 5人

・出席委員

1 番	福井 崇 昌
3 番	福地 尚 美
4 番	新井 泉
5 番	西口 絹 代
6 番	酒井 一 行

・説明のため本会議に出席した職員

教育部長 片柳 理 光

教育総務課長 添野 雅 夫

学校教育課長 中島 利 雄

生涯学習課長 細井 典 子

車屋美術館副館長 鈴木 一 男

博物館長 水川 和 男

中央図書館長 栗原 要 子

生涯スポーツ課

スポーツ立市体育振興係長 高野 健 一

・書記

教育総務課課長補佐兼総務政策係長 森川 忠 洋

・議題

報告事項

1 教育総務課

- ・寄付受入れについて
- ・小中一貫校に係る(絹中学区)推進委員会の会議結果について

2 生涯学習課

- ・第10回記念小山市青少年健全育成大会の開催について

3 生涯スポーツ課

- ・2015 およませスポーツ・レクリエーションフェアの結果について
- ・平成27年度大会結果速報について

4 中央図書館

- ・平成27年度「地下書庫探検ツアー」の実施について
- ・平成27年度「パパと子どものためのおはなし会と工作教室」の実施について
- ・小山市立中央図書館ビジネス支援サービス事業
10周年記念シンポジウムの実施について

協議事項

1 教育総務課

- ・第2回総合教育会議の協議事項について
- ・絹中学区小中一貫校開設準備室の設置について

・議事内容

○添野教育総務課長

皆さん、こんにちは。それでは、10月の定例教育委員会の会議録署名委員につきましては、順番では神山委員ですが、欠席ということで、福地委員にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、委員長、よろしくお願いします。

○福井委員長

それでは、ただいまより10月の定例教育委員会を開会いたします。

まず、報告事項であります。

まず一点、10月22日、23日、24日と、自主的な公費は使わない研修で、松江市の近辺に行っていました。今回は、足立美術館、それから中村元記念館、それから島根県立美術館、島根県立博物館と、いろいろ見てまいりました。

地方都市で非常に頑張っているなという気がいたしました。美術館もその地域の風景を取り入れて展開されて、県立美術館もまだできて新しいのですが、すばらしい美術館だったというふうに思います。

足立美術館に関しては、できてかなり年数がたっているのですが、本当に收藏しているものもすばらしいものがあります。庭園が日本の有数の庭園で、毎年アメリカの庭園ランキングで日本の庭園でトップという位置づけになっております。

あと出雲に県立博物館がありまして、これも出雲を中心とした古代のいろいろな文化、縄文、石器あたりからずっと発掘したものが並んでいて、出雲大社の関連の展示もありました。出雲大社というと日本の有数の神社でありますので、そういう意味では、これも充実した内容でありました。

それから、中村元記念館も見学してまいりました。日本で有数の仏教学者でありまして、松江市出身、文化勲章を受けていらっしゃるような方でございます。仏教関係の資料だけで約3万何千点かあるということで、すばらしい記念館だったなというふうに思います。

それから、もう一つは、参考までになのですが、お手元に山陰中央新報というのを配らせていただきました。旅館に入りましたら新聞が配られていて、そこに松江市教育委員会が学力テスト成績公表という形で載っておりまして、栃木県でもやっていますが、松山市は、平均回答率等、細かいところまで全部発表しているのです。こういう事例もあるのだなということで、皆さんに参考までにお配りいたしました。これを見ますと、やっぱり賛否両論あるようであります。学校の序列化につながるとか、過度な競争を招いてしまうのではないとか、いろんな指摘がありまして、これもある意味一つのケースワークになるのではないかなという形で皆さんのところへお配りさせていただきました。

確かに規模からいくと小山よりもかなり大きい規模なのですがけれども、この抱えている

問題等、これをどう取り扱うかということ、それからこれに対してどういうふうに対策をとっていくかということ、やっぱり現場と教育委員会といろいろ考えるとところが違うところがあるようであります、これらもケースワークとして我々も頭に入れておいていいかなど、これから栃木県もどういう形になるかという形がまだはっきりしませんけれども、現状ではこんな細かく発表するという事はないのですけれども、これも一つのケースワークという形で皆さんに提供しておきます。

まず、第1番目の報告は以上であります。

次に、第2番目の報告として、10月16日の下都賀地区定例教育委員会連合会の定例会が開かれました。これは、議題として、お手元の資料にあります平成28年度小・中学校職員定期異動方針ということでございます。方針が示されておまして、なおかつ今回も例年どおり、教育長部会にこの事務を委任すると、一任するという形で決定いたしましたので、報告申し上げます。

内容的には、例年と全く変わらないということでございました。1番から8番までありますけれども、去年と全く同じだという説明でありました。これは、後で読んでいただければというふうに思います。

平成28年度小・中学校職員定期異動方針の具体的内容ということで、1から8まであります。これは、前の表の具体化したという形になりますので、これで教育長部会がこの方針にのっとって人事をスタートするということになります。

酒井教育長もこのときおまして、小山市の方針もまだ聞いてはおりませんけれども、そういうのも含めて細かいことがありましたらば、教育長からも報告を補足でお願いしたいと思っております。よろしくお願いたします。

○酒井教育長

表裏になっておりますけれども、これは10月2日に栃木県教育委員会が定期異動方針として示したものであります。先ほど委員長からお話ございましたように、これと全く同じもので、下都賀地区市町教委連合会、栃木県教育委員会下都賀教育事務所の提起されたものがございまして、栃木県教育委員会の定めたものを本地区、あるいは本市でも採用していくということであります。

内容につきましては、先ほど委員長からお話がありまして、前年、前々年、しばらく変わっていないわけでございますけれども、市町教育委員会とそれから県教育委員会がともに人事異動を進めていくということでありますので、そのことについてご理解をいただければと。

それから、市として1から8まで書いてあるわけでありまして、その後ろにございますのは、それについて若干の説明を加えているということになりました。例えば1番は、人材を抜擢して人事の刷新を図る。それから、2番目、人材の育成を重視した教員配置に努める。さらには、適材適所の配置、学校間の均衡などが書かれているわけでありまして、下都賀地区としては、この後ろにございます5番が一つの重点で、小中学校間の積極的かつ円滑な人事の交流に努めるとともに、小・中学校と県立学校との交流についても配慮する。

それから、6番目、広域にわたる人事の交流を推進し、職員構成の全県的な均衡を図る。後ろに行きますと、市町村の合併による新たな市町村の枠組みにおいて、基準となる在職年

数等を踏まえ、市町間人事異動を積極的に推進をする。特に若手・中堅層の人事異動を推進し、市町間異動を活性化するように努める。要は、人事の一つの大きな目的というのが教職員の人材の育成、異動は自分の最大の成長の機会と捉えるようにというふうな指導をさせていただいているわけでありますけれども、やはり多くの市町を経験して研さんに励んでいただき、将来、本県、本市の教育を担う人材として育てていただきたいということが主眼であります。

具体的にお話を申し上げていきますと、6番については下都賀地区は3市2町で構成されているわけでありますけれども、同一市町に15年連続して勤めた場合、あるいは同一校に8年、県の教育委員会としては1番の取り決めはございません。例えば上都賀地区でございますと、日光市と鹿沼市しかないのです。しかも、本当に県土の4分の1ぐらい占めているわけですから、なかなか人事の交流は図られませんが、下都賀地区の場合には、平野で難しくないところ、通勤しやすいところにあるものですから、15年でいいと、そして県は同一校10年という枠がありますけれども、本市におきましては8年というふうな枠の中で異動対象としていくと、当然本人の希望あるいは校長の具申、あるいは中学校でいえば学校の規模の変更によって、やむを得ず1年、2年、3年などというふうに異動する場合もあるわけでございますけれども、おおむね同一校6年を目安にして異動対象としていくということでございます。

大切なのは、長い教員もいて、その学区のことについてよくわかっている方も必要であるし、新しい方が入ってきて、新しい血を入れていただくと、これも必要なことでもあります。ですから、男女のバランスであるとか他の項目の中に年齢のバランスとかというのも書かれているわけでありますけれども、昨日も下都賀地区の教頭研修会がございまして、学校によりましては、本当に45歳以上、あるいは50歳以上が非常に多い。県全体を見ましても、特に県北、それから県の東地区におきましては、もう平均年齢が45歳を超えていると、小山市の場合は42歳と県内でも若いほうなのですけれども、それでも年齢の偏りが出てきたり男女の偏りが出てきますので、そういったバランスということを大切にした人事異動を進めているということが全体にちりばめられている内容でございます。

今後、本人の異動希望に基づいて、校長とヒアリングをし、他市町との連携を図りながら、あるいは他課との連携を図りながら、適切な異動事務を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げたいと存じます。

○福井委員長

私の報告事項は以上でございます。

続きますので、教育長からの報告事項に入ります。

○酒井教育長

お時間の関係もございまして、前回以降の主な出席をしました行事について、ご報告を申し上げます。

30日、豊田中学校に計画訪問、各学校の教育計画であるとか授業の内容等について、つぶさに見学をさせていただき、全体会あるいは分科会などを通しまして、県あるいは市として求めている教育のあり方、教育の進め方等について意見を交換し、学校それぞれの見合った指導をさせているところであります。

それから、10月1日木曜日でありますけれども、ALT、CIRが2名交代になりました。

たので、配置をさせていただきました。

2日金曜日でありますけれども、実は3日に高橋神社の秋季例大祭がございまして、そちらで包丁式、料理を手を使わずに包丁だけでやる、そういった儀式があったわけでありまして、和食の大家などが来ておりましたので、前日、小山第一小学校で小山市の和食の給食を食べていただいたわけでありまして。

それから、5日月曜日でありますけれども、紹興市教育派遣団が来市いたしました。小山第三中学校と友好関係を結んでおります樹人中学校教員と教育委員会と生徒が来たわけでありまして、歓迎の夕食会を開かせていただきました。

6日には、萱橋小学校の新採訪問、新規採用教職員の訪問であります。

7日には、栃木県教育委員会下都賀教育事務所と一緒に豊田南小学校を訪問してまいりました。

9日には、間々田中学校の新採用教員訪問。

それから、10日でありますけれども、絹地区防犯市民大会、これは委員長が挨拶をしたわけでありまして、一緒に参加してまいりました。

午後、結城市と小山市の友好都市盟約がちょうど1周年を迎えるわけでございますので、その記念事業に出席をしてまいりました。

11日、日曜日には、小山市の秋季学童相撲大会がございました。

それから、13日火曜日、大谷北小学校で稲刈り、現在7校で田んぼの学校を実践しておりますけれども、大谷北小学校は7校のうちの6番目でございます。

17日には、市の文化財でございます岸家住宅におきまして、代官屋敷津軽三味線コンサートなどというのございまして、そちらも参加させていただきました。

18日、日曜日には、第6回おやま生まれのオレンジリボンたすきりレー、午後は小山市のブランドの一つでございますハンドベルフェスタに参加をさせていただきました。

19日月曜日でありますけれども、羽川西小学校が羽川小学校で約1カ月授業を進めていたわけでありまして、おかげをもちまして復興式を執り行わせていただきまして、まだ体育館等が使えない状態でございますけれども、再開式を行わせていただきました。

それから、これも新聞に出ておりましたけれども、今、市内各所、あるいは全国的に子ども避難の家というのがございまして、これが生まれたのは小山市の花垣町でございまして、ちょうど20周年に当たるものですから、小山第一小学校から記念事業を行わせていただきました。

同日、下都賀地区の校長研修会が開かれ、前期の学校教育について振り返り、人事異動等についても細かい説明が持たれたわけでございます。

20日には、寒川小学校の稲刈りでございます。

午後、主幹教諭・教務主任研修会に出かけてまいりまして、先ほど申し上げましたように、前期の反省に基づいて後期教育課程の適切な執行に当たるよう指示をさせていただくとともに、次年度に向けて適切な教育課程の編成に当たることのできるよう指示をさせていただきました。

21日には、人事問題協議会、県教育委員会で主催され、県庁、本庁でありまして、本県のさまざまな人事問題についての協議がなされ、午後は栃木県内の市町教育委員会連合会教育長部会の総会等がございました。

22日木曜日でありますけれども、定例校長会を開き、先ほど申し上げました下都賀地区校長研修会を受けて、人事異動などについて細かく指示をさせていただきました。

24日には、博物館第65回企画展のオープニング、そのあとキッズ・ユニバーシティ・おやま2015 in 関東能開大が行われまして、出席をしております。

25日、日曜日には、少年柔道育成会杯第12回少年柔道体重別大会というのがございまして、関東、甲信越、東北の小中学生合わせて約1,000名を迎えての大会でありました。

引き続き、網戸小学校跡地に太陽光発電所が開設されまして、その開所式、さらにはこれも新聞に出てございましたけれども、子ども司書養成セミナーの修了式が中央図書館で行われ、参加をしております。

昨日でありますけれども、下都賀地区の小中学校教頭会の研究発表がございまして、小山市の代表なども学校経営について発表があったわけであります。

その後、小山市防火管理協会、小山市消防署共催でありますけれども、防火ポスター表彰式がございまして、参加をさせていただきました。

細々な報告になってしまいましたけれども、前回の教育委員会以降ありましたことについてご報告申し上げます。

以上であります。

○福井委員長

続きまして、教育部長からお願いします。

○片柳教育部長

報告事項は特になのですが、本日から市長を団長、議長を副団長としますケアンズ・メルボルンへの訪問団ということで出発しています。その内容としまして、2020年の東京オリンピックの際に、オーストラリア水泳チームに小山市でキャンプをしていただくということで、その誘致が目的の一つです。生涯スポーツ課の田口課長もあちらへ副秘書長ということでオーストラリアへ向かっております。

以上でございます。

○福井委員長

続きまして、教育総務課長からお願いします。

○添野教育総務課長

議案書の2ページをお開きいただきたいと思っております。教育総務課からは2点でございます。まず、3ページの寄附受け入れ報告でございます。テントほかでございます、この中で上から3番目、玉入れ用の紅白玉ということで600個、羽川西小学校に寄贈がございました。羽川西小学校が被災しているんなものが使えなくなったということで寄附をいただいたものでございます。

また、その下が清掃用品一式ということで、ライオンズクラブから羽川西小学校に100万円相当、最初100万円という現金だったのですが、品物ということで清掃用品一式ということで頂戴しております。

1つ置まして、小山市のPTA連合会からは、災害見舞金ということで羽川西小学校に現金で5万円の寄附がございました。

それから、その下なのですが、教育総務課に栃木放送から、携帯ラジオ27台、これは災害のときに使えるようにということで、各小学校に1台ずつということで寄附をいただい

ております。

ほかは記載のとおりでございます。

続きまして、4ページをごらんいただきたいと思います。小中一貫校に係る（絹中学区）推進委員会の会議結果につきまして、別紙になっておりますので、申しわけございませんが、こちらをごらんいただきたいと思います。

「第9回小山市小中一貫校（絹中学区）推進委員会」会議結果報告書というものでございます。去る10月20日火曜日に絹公民館で開催いたしました。議事の内容につきましては、スクールバスあるいは開校スケジュール、そして絹中学区の小中一貫教育の内容等、また学童保育等について事務局より説明をさせていただきます、次のとおりの質疑等がございました。

大きな内容といたしましては、スクールバスについてのご質問、それから給食調理場に関するご質問、そして学力向上アドバイザーの質問、それから学童保育の質問等々でございます。

詳細については後でごらんいただければと思います。

以上でございます。

○福井委員長

続きまして、生涯学習課長からお願いします。

○細井生涯学習課長

報告事項でございます。5ページをごらんいただきたいと思います。

第10回記念小山市青少年健全育成大会の開催について。次代を担う青少年の視野を広げ、自立心や協調性及び社会参加の意思を育むとともに、青少年が健やかに成長するために地域で支え合う健全な環境、安全で安心な小山を広く訴えていくことを目的としまして、第10回記念でございます小山市青少年健全育成大会を開催いたします。

大会は、「青少年の主張作文コンクール」及び「アトラクション」の2部構成でございます。今回も小山市あいさつ運動の標語・ポスター作品コンクールの表彰式と作品展を同時開催いたします。

主催は、小山市と小山市教育委員会。後援は、次の団体、警察署を初め団体の方々にご後援いただいております。

日時でございますが、11月15日、日曜日、午後1時から午後4時半でございます。会場は、文化センター大ホール。いつもでしたら青少年のパフォーマンス等のアトラクションだったのですけれども、今年は第10回を記念しまして、括弧書きになっていますが、ロボットパフォーマーののぞみ氏によるパフォーマンスを予定しております。その後、表彰式で閉会と、そういう順序でまいりたいと思っております。

以上でございます。

○福井委員長

続きまして、生涯スポーツ課係長からお願いします。

○高野生涯スポーツ課スポーツ立市体育振興係長

定例教育委員会の報告事項ということで、2015おやまスポーツ・レクリエーションフェアの結果についてご報告いたします。

10月3日9時30分から16時30分まで、県南体育館・小山総合公園森のはらっぱで実施い

たしました。特にことしは、第5回広域ドッジビーコンペティション北関東大会2015ということで、大きな大会を誘致させていただきました。

参加の内訳なのですが、市内から367名、市外269名、また大会関係者、観戦者等合わせまして、参加者1,314名となりました。

また、レクリエーション体験ということで、森のはらっぱにおきまして、8種目のレクリエーション体験をしました。192名の参加がありまして、合計で1,506名のスポレクフェアへの参加がありました。

続きまして、9月4日から10月9日分の大会の結果報告についてです。

9月7日、9月24日、記載のとおりでございます。特に特筆すべきは、10月1日付の記述で小山南高校の山根大地君が国民体育大会ウエイトリフティング少年男子69キログラム級で優勝いたしました。

また、裏面、8ページになります。岸愛弓さん、小山第二中学校出身、宇都宮女子高校に在学している生徒なのですが、やはり国民体育大会水泳競技、少年女子A400メートルメドレーリレーで優勝いたしました。

また、9月24日付、海老原詩織さん、やはり小山第二中学校出身の作新学院高校に在学している生徒なのですが、第34回全日本ジュニアバドミントン選手権大会ジュニアの部、女子シングルスで優勝しております。

今ご報告いたしました3名につきましては、市役所本庁舎にて懸垂幕の設置があります。以上です。

○福井委員長

続きまして、中央図書館長からお願いします。

○栗原中央図書館長

それでは、中央図書館から3件報告事項があります。

まず、1点目、9ページをごらんいただきたいと思います。平成27年度「地下書庫探検ツアー」の実施でございます。中学生以上の市民に、図書館を利用するきっかけを与え、図書館に親んでもらうために、日ごろは利用者が立ち入れない中央図書館の地下書庫を見学していただきます。読書週間の行事として開催するものでございます。きょうから11月9日までが読書週間です。今回のキャッチフレーズは、「いつだって、読書日和」です。

日時でございますが、11月3日午前10時半から11時半まででございます。会場は、中央図書館の第1集会室及び地下書庫でございます。

内容は、中央図書館の地下書庫、地下1階と地下2階がございますが、そちらを見学していただきます。地下書庫に保管してある発行年が古い小山市の住宅地図を使用いたしまして、参加者の自宅周辺や小山駅周辺などを探し、以前の土地の使われ方などを調べます。先着20名でございます。

詳しくは、10ページのチラシをごらんいただきたいと思います。と存じます。

続きまして、2点目、11ページをごらんいただきたいと思います。平成27年度「パパと子どものためのおはなし会と工作教室」の実施についてでございます。小山市子ども読書活動推進計画の第2期の基本方針「子どもたちと本との出会いの場の設定」の施策を推進するために、「パパと子どものためのおはなし会と工作教室」を実施いたします。おはなし会、工作教室を通しまして、父親と子どもが触れ合う機会を提供することによりまして、

父親の育児参加を促進するとともに、図書館になれ親んでもらい、図書への関心や読書意欲を高めるものでございます。

日時でございますが、11月8日、日曜日午前10時半から11時30分。会場は、中央図書館の視聴覚ホールです。

内容は、おはなし会、工作教室、紙飛行機づくりであります。プログラムは記載のとおりです。

対象は、市内在住の4歳から小学生までの子どもとその父親、もちろん母親も参加可能でございます。先着10組でしたが、申し込みが定員となりました。

詳しくは12ページをごらんいただきたいと存じます。

最後、3点目でございます。13ページをごらんいただきたいと存じます。小山市立中央図書館ビジネス支援サービス事業の10周年記念シンポジウム及び展示の実施についてでございます。

小山市立中央図書館のビジネス支援サービス事業の開始から10周年を迎えるに当たりまして、10年間の歩みを振り返り、今後のサービス継続に向けた指針づくりをするものでございます。

日時でございますが、まず1つ目が10周年の記念シンポジウム。11月21日土曜日、午後2時から4時45分です。会場は、中央図書館の視聴覚ホールです。

基調講演は、「地域創生・活性化の拠点となる図書館を目指して～ビジネス支援サービスを中心として～」、講師は竹内利明先生でございます。10年前に1度先生をお呼びしております。今回10年目にまたお呼びいたしました。

2つ目に、起業家による事例発表・座談会。ビジネスセミナー受講後に起業した方、10人ほどいますが、その中から4名ないし5名による事例発表及び座談会を予定しております。コーディネーターには、白鷗大学の小笠原伸先生をお呼びしております。

3つ目に、ビジネス支援サービスの歩みの展示。11月21日から22日、視聴覚ホールに小山市内の企業による展示・実演、またビジネス支援サービス事業の活動報告を展示いたします。皆様もぜひごらんいただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

○福井委員長

報告事項につきましては以上でございます。

これについてのご質問、ご意見などをお伺いしたいと思います。

西口委員、どうぞ。

○西口委員

では、2点ほど、5ページの生涯学習課のアトラクションのロボットパフォーマーのぞみ氏のパフォーマンスというのは、具体的にどういうことかというのをお聞きしたいのと、それと11ページの中央図書館のパパと子どものためのおはなし会と工作教室、すごくこれいいなと思いましたので、先着10組だけではなく、例えばシリーズで続けていただくとか、今後どのようになるのか聞きたいなと思いました。いかがでしょうか。

○福井委員長

生涯学習課長からどうぞ。

○細井生涯学習課長

ロボットのぞみ氏によるパフォーマンスでございますけれども、実名は明かしていません。2010年頃にメディアに出て、当時25歳ぐらいの青年がロボットをつくったものをかぶって、テーマが自然だったり命だったり愛、いじめ、自殺、人間社会、戦争、リサイクルというパントマイムとミュージックで、例えば子犬が鳴いているところにロボットのぞみさんがパントマイムをして、すごく人の心に届けるようなパフォーマンスをするという、メディアで大分取り上げられたと思うのです。

今は自分で主催する側で、もう31歳ぐらいになられるようなのです。心理カウンセラーの資格も持っていらっしゃるということで、青少年に優しさだったり、何か希望とか夢とか、心に届くようなことをパフォーマンスとして届けてくれると期待しております。

以上でございます。

○西口委員

イメージとしては、よく映画館の最後に、映画を勝手に事業で撮ってはいけないとかというときに出てくる感じの方かなと。ありがとうございました。

○細井生涯学習課長

ぜひよろしく願いいたします。

○福井委員長

では、中央図書館長、どうぞ。

○栗原中央図書館長

パパと子どものおはなし会と工作教室の件でございますけれども、図書館といたしましては、子どもたちと本との出会いの場の設定ということで、実施しております。先ほども申し上げましたが、地下書庫探検ツアーなどは夏休みには親子の地下書庫探検ツアーを2回計画したり、1年を通しましてさまざまな集会行事を行っています。今回の事業にかぎらず、どうしてもお母様方の参加が多く、お父様方の参加が少ないという傾向が見られますので、父親の、特にイクメンといいましょうか、父親の育児参加を促進したいということで計画しているものでございます。

10組といいましても、お子さんがお二人いれば2人連れてきますので、人数はそれなりの人数になるかと思えます。非常に好評でございますので、今後も継続できればとは考えております。

以上でございます。

○福井委員長

ほかにいかがでしょうか。

私から、これは生涯スポーツ課で、スポーツレクリエーションフェアの報告がありましたけれども、この内容の8種目の中で、わからないのがあるので、簡単に教えて頂きたい。マジックミットというのとビーフピア、ストラックアウト、クッブというのかな、これはどんな競技なのか参考までに。

○高野生涯スポーツ課スポーツ立市体育振興係長

マジックミットというのは、グローブみたいところにボールを投げますと、ボールがそのミットにくっつきます。それをとってまた相手に放ります。そして、またそれをキャッチする、当てます、くっつくとものがマジックミットです。

〔「マジックテープか何かがついているのだね」と呼ぶ者あり〕

○高野生涯スポーツ課スポーツ立市体育振興係長

きざきざしている形状のものが付いています。

ビーフピアというのは、それと似たようなもの、競技というかレクリエーションなのですが、プラスチック製のボールを投げます。そうすると、キャッチするところがあります。プラスチックの網のようなものがありまして、そこで今度は拾います。そして、そこでボールをとってまた投げて、相手にプラスチックの網目のネットのようなものでとるというものになります。

クップというのは、端的に言いますと、陣取りゲームです。どのような形で陣取りゲームをするかと言いますと、積み木のブロックです。それを積み上げてございます。それを自分の丸い積み木で当てます。そして、積み木が崩れていって、そしてまた陣を取っていくという形で、相手がいて陣取りゲームを行うというものです。表で実施したのですが。

○福井委員長

ストラックアウトというのは。

○高野生涯スポーツ課スポーツ立市体育振興係長

ストラックアウトというのは、正方形の的に、9つの枠があります。それをこの場合には、ボールではなく、ドッジビーというウレタン製のものの的をねらい投げます。当たると枠の中がぽんと外れます。そして、縦の列や斜めの列、横の列というものをそろえていくというレクリエーションになります。

以上です。

○福井委員長

ありがとうございました。

そのほかはいかがでしょうか。

新井委員、どうぞ。

○新井委員

今に関連してなのですけれども、輪投げというのとジャンボ輪投げのサイズを教えてください。

○福井委員長

生涯スポーツ課係長。

○高野生涯スポーツ課スポーツ立市体育振興係長

感覚的な言い方になってしまうのですが、輪投げは直径が10センチから15センチぐらいのゴム製のものであります。それに対して入れるほうは、斜めにしていまして、そこに棒があるのでそこに対して入れます。各棒に点数があるので点数を競い合うというものです。

ジャンボ輪投げというのは、もう少し大きいもので、直径30cm弱の輪を1本の棒に投げ入れるものです。

以上です。

○福井委員長

福地委員、どうぞ。

○福地委員

生涯スポーツ課で発表になりましたウエイトリフティングの人、小山南高校に大きな垂

れ幕が出ていまして、とても目立つようになっておりました。オリンピックを目指しているということも言うておりますので、ますます頑張ってもらいたいと思います。

○福井委員長

そのほかはいかがですか。

西口委員、どうぞ。

○西口委員

羽川西小学校の寄附などは、例えば市民の方からそういうお話があった場合は、どこを窓口にということになりますか。

○福井委員長

教育総務課長。

○添野教育総務課長

具体的には、直接羽川西小学校にご寄附を申し入れていただければよろしいと思います。それは、直接羽川西小学校に寄附をされるということで、教育委員会に寄附の報告が上がってまいりますので、それで処理いたします。

○福井委員長

そのほかいかがでしょうか。

私から、中央図書館ビジネス支援サービス事業の10周年記念ということで、これは積極的に図書館を活用してもらおうという一つの提案で、うまくいっている事例なのかなというふうな気がいたします。10周年の記念ということで、今までのそういうビジネス支援サービスも踏まえていろいろ講演があるのだらうと思いますけれども、始めた当時のビジネス支援サービス、これは小山図書館だけではなくて、ほかの地区でもやっているのだと思うのですけれども、環境の変化とか、やり方の変化というのは10年やってきて違いというか、どんなところがありますか、教えてもらえればと。

中央図書館長。

○栗原中央図書館長

10年前ごろから図書館のサービスのあり方として、課題解決型図書館を目指すというのが大きな方針としてございました。その中の一つとしてこのビジネス支援サービスというのがはじまったわけでございます。

全国的に見ますと、小山の図書館がはしりで始まったような状況です。県内では一番最初にビジネス支援事業を始めています。現在行っているのは、宇都宮の図書館等でございます。

また、小山の特徴といたしまして、小山市の特徴は工業都市であるけれども、農業都市でもあるというようなところをキャッチフレーズといたしまして、農業支援サービス事業を展開しております。これにつきましては、全国でまだ小山だけだと思います。この件につきましては、よく全国から視察に来ているというような現状がございます。

全体の図書館界の流れといたしまして、ビジネス支援は、定着しているかと思えます。ただし、展開の仕方が、地域性がございます。どのような形で展開するか、それぞれ違う部分があるかと思えますが、小山の場合は、農業支援サービスをやっているところは大きい違いかと思えます。

それから、ビジネス支援サービスの中で、小山の場合の大きな特徴の一つに、起業家が

非常に多く誕生しているということなのです。現在10人、11月21日には警備会社をやっている方、道の駅にお店を出している方、エステサロンをやっている方、それから直売所をやっている方、4人の方、場合によってはもう一人増える予定なのですが、事例発表をしていただく予定です。それぞれの方も自分の身の丈に合った起業の仕方をしていまして、成功しているという話を聞いております。

もう一つの小山の特徴として、小山市内の企業による展示と実演をやっているということです。小山ゆかりの企業展ということで展示をしているのですが、先日、ある会社でかんぴょうスピーカーを展示しているのですが、そのかんぴょうスピーカーが国のモデルになったり県のブランドになったりという効果も出ております。今後もこの課題解決型図書館の大きなサービスのあり方として、ビジネス支援、農業支援を小山の場合は継続していきたいと考えております。

○福井委員長

ありがとうございます。

あと、これに関連して、これは1カ月ぐらい前に話題になったのですが、図書館の民営化ということで業務委託をして、図書の入れ方などの問題が指摘されたことがありますけれども、全て民間委託の場合と、こういうビジネス支援事業みたいな特徴のある事業をやっていくという場合、小山の場合は、一部サポートスタッフとして入っているという程度なのですが、運営主体まで含めしまうと、こういうオリジナルは難しくなるというような気がするのですよね。そこら辺はこれからの公共図書館のあり方として、やっぱり民間委託のやり方も一つのモデルなのですけれども、いろいろな問題も出てきているなというふうな気がするのです。それから、公共図書館のあり方とそういう全く100%民営化してしまう場合との違いというのは、ある意味出てきていいのかなという気がするのです。そういう意味では10周年というのを振り返ってみて、そこら辺もじっくりと検証できるのかなと、そんな時期に来ているのかという気がするのです。その辺はどうでしょうか。

中央図書館長。

○栗原中央図書館長

小山市の図書館の場合は、今委員長がおっしゃったとおりでございます。一部業務委託という形で、委託する業務と委託をしない業務というのを明確に分けています。委託をしない業務の中に、その課題解決型図書館の一つであるビジネス支援なども挙げますし、もう一つ、子供への支援、この2つの事務が委託をしないということで明確にしております。

今後、桑の市民交流センターの中に分館としては3つ目となりますけれども、桑分館が開設予定です。その業務についても委託をする考え方でおります。仕事の内容をきちんと分けております。委託をしてもよい業務、委託してはいけない業務ということが明確になったことによりまして、職員も非常に専門性が高められたと言えるかと思えます。

指定管理者という方法もありますが、それを判断するのは市民の方だとは思いますがけれども、小山の場合は、今現在のこの運営の仕方、うまくすみ分けをし、運営しているのではないかと、かなり個人的な見解も入っておりますけれども、考えております。

○福井委員長

ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

私から、先ほど報告のあった、小中一貫校の問題、推進委員会を開いていますということでもありますけれども、第9回ですね。これは平成28年にいろんなことの具体的な取り決めというのは入ってくるわけですが、そこら辺の進み具合というか、今後詰めなくてはならないこと、あと何回ぐらいやっていくのかということ等、概略がわかれば教えてください。

教育総務課長。

○添野教育総務課長

今年度につきましては3回、開催したわけでございます。あと年度内には3回程度と考えております。平成28年度になりますと、残り1年ということで、それぞれの学校等で準備が始まります。その前からというものもあるのですが、今その体制づくりというものありまして、急遽なのですが、このあとの協議事項で、特に絹中学校の新しい小中一貫校の開校の準備ということについて、こちらの議案へは記載されていないのですが、追加で協議事項という形で提案させていただいております。

スクールバスの停留所というか、とまる場所についても地域のご意見を伺って、どういうふうにするのか、実際の運行ルート、そういうものを検討しなければいけないと思います。

最も大事なものは、教育内容ということでございますけれども、それについても考えていきます。あとは、その小中一貫校ということなのですが、今回の学校教育法の改正において小学校、中学校のほかに義務教育学校という位置づけが法的にされましたので、そういうふうなことについてもなるべく早く方向づけをしないといけないだろうというふうに考えております。

また、既に着手しておりますけれども、今年度中に、今の福良小学校の校舎から絹中学校の校舎へ、雨が降っても行けるように渡り廊下を設置するとか、そのようなことも計画して、地域の皆様にもお知らせしているところでございます。

やる事はたくさんあるのですが、この後、開校の準備ということでの体制について協議事項ということで挙げさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○福井委員長

ほかはいかがでしょうか。

〔発言する者なし〕

○福井委員長

それでは、報告事項については以上でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○福井委員長

それでは、報告事項につきましては承認するという形で締めたいと思います。本日は、審議事項ございませんので、協議事項のほうに移りたいと思います。協議事項について、教育総務課のほうでお願いいたします。

<協議事項について説明・意見交換>

○福井委員長

それでは、協議事項は終了いたします。

次回の教育委員会の日程についてお願いいたします。

○添野教育総務課長

11月13日金曜日、14時からを予定しております。

よろしくお願いいたします。

○福井委員長

それでは、これもちまして、10月の定例教育委員会を終了させていただきます。

どうも長時間ありがとうございました。

—————閉 会 午後 5時00分—————